

潮音寺だより

第 255 号
平成 17 年 1 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



だより

潮音寺什物 華鬘

声に出して
言ってみよう

自分にとって

去年は

とても

素晴らしい
年であった

そして

新たに

輝ける一年が

始まるうとしている

すべてが

自分を鍛え

自分を強くする

そう

今が幸せ

今年も

きつと

よい年になる

仏典に登場する鳥

今年の干支は酉（ニワトリ）です。で、仏教に関連のある鳥のお話をさせていただきます。いくつかあります。

浄土経典『阿弥陀経』に、極楽について、次のような記述があります。

「かの世界には、常五色の鳥の珍しい鳥がいる。白鸚（白鳥）・孔雀・鸚鵡・舍利（九官鳥）・迦陵頻伽・共命鳥といった諸々の鳥が、昼三回、夜二回優雅な声で鳴く。そして、その鳴き声は、仏の教えとなつて聞かせる。その国の人びとは、その鳴き声を聞くと、仏・僧の三玉を念ずる心を持ち、自然にわいてくるのである。」

記述中の白鸚（白鳥）・孔雀・鸚鵡・舍利（九官鳥）につきまし

ては、とりあえずイメージできるというくらい、ここでは省略させていただきます。

まず、迦陵頻伽は、サンスクリット語の音写語で、略して迦陵頻とも、美しく妙なる鳴き声を持つ鳥ということから、妙音鳥とも好音鳥とも訳されます。なんでも、卵の殻の中にいるうちから鳴きだすとか。雪山（ヒマラヤ）や極楽浄土に住むとされる想像上の鳥であります。

この鳥のいちばんの特徴は、人頭鳥身という姿です。浄土变相図や天井画などの建築装飾、華鬘などの工芸文様中に、よく描かれたりします。（図1）

また、雅楽の曲名に『迦陵頻』というのがありますが、その名が示すとおり、この鳥の舞曲で

あります。伝説によれば、インドの祇園精舎供養の日に、迦陵頻伽



図 2

が降り立ち鳴き舞った姿を模した舞といわれ、背中に鳥の羽根の作り物をつけ、鳴き声を模すために銅拍子と呼ばれる小さなシンバルを打鳴らしながら可憐に舞つものです。（図2）

次に、共命鳥は、命命鳥、生生鳥などとも呼ばれ、これらはサンスクリット語を直訳した名前、善婆善婆や善婆善婆迦と、音写語で表現されることもありま

す。元来は、インド北部にすむ雉子の一種で、その鳴き声によつ

て名づけられたものとのこと
です。そして、その特徴は、体は一
つでありながら頭と心を二つ持
ち、とても声が美しいというこ
とです。ただ、この鳥には、こん
な悲しい過去があります。

あるとき、一羽の**共命鳥**の一
頭が、とりわけ美しい声をして
おりました。ところが、もう片方
の二頭は、どうしたことが悪声
であったので、美声の頭に、常々
嫉妬していました。

それで、悪声の方が、このもう
一つの頭さえいなければ、自分
はコンプレックスを持たずにす
むと考え、彼の餌の中に、そつと
毒をしのばせました。そつとも
知らず、相棒のもう一つの頭は、
その餌を食べ死んでしまいました
た。しかし、もともと体は一つ、

当然、食わせた方の二頭も死ん
でしまいました。

この事件があつて、**共命鳥**は
反省し、相手を生かすことが、自
分を生かすことであると悟った
といひます。それ以後、**共命鳥**は
互いに助け合つて、極楽世界で
美しい声で鳴いているというこ
とです。

他に、鳥類の王、竜を食う大怪
鳥、**迦楼羅**という鳥がいます。金
色の翼を持つので**金翅鳥**とも呼
ばれます。仏法を守護する八部
衆の一つとされ、奈良の興福寺



図 3

に、有名な**迦楼羅**像があります。

(図 3)

ちなみに、ヒンズー神話に出

てくる、ヴィシユ又神の乗り物
であるガルダは、この鳥と同
じで、ガルダ・インドネシア航
空の社名にも使われています。

最後に、インドの**雪山**(ヒマラ
ヤ)には、**寒古鳥**なる鳥が住んで
いるとか。夜は、穴の中で寒さに
苦しみ、明日は暖かい巣を作る
うと鳴き通すが、朝日を浴びる
と寒苦を忘れ、今日明日の命も
保証しがたい無常な世の中に、
巢作りなどしても意味がないと
鳴き通して毎日を送っているの
だそつです。もつとも、この鳥に
似た**鵜**は、ヒマラヤに行かずと
も、どこにもいそつであります。
さて、新年にあたり、仏典に登
場する珍鳥たちの声は、耳を澄
ませ、心を研ぎ澄ませば、聞こえ
てくるかもしれせん。

平成十七年度年回表

・ 一 周忌	平成 十六年	・ 二十三回忌	昭和五十八年
・ 三 回忌	平成 十五年	・ 二十七回忌	昭和五十四年
・ 七 回忌	平成 十一年	・ 三十三回忌	昭和四十八年
・ 十三回忌	平成 五年	・ 三十七回忌	昭和四十四年
・ 十七回忌	平成 元年	・ 四十三回忌	昭和三十八年
		・ 四十七回忌	昭和三十四年
		・ 五十回忌	昭和三十一年

◎住職年頭の挨拶

人間は、複雑な遺伝子であるDNAを内蔵した六十兆億もの細胞から出来ている。ここに命が宿っている間が、我が人生だ。そして、死によって体は朽ちるが、命は、遺族の供養によって仏の光となって昇華する。今ある我が命は、ご先祖からの大切な預かりもの。新年、心を新たに、ご先祖様に、感謝の心で、合掌、南無阿弥陀佛。

本年で住職五十年、いろいろ

ありがとうございました。今後の余生、宜しく願います。

◎平成十七年度の予定

年間行事は次のとおりです。

- ・ 3月20日(日) 春彼岸施餓鬼会
- ・ 8月12日(金) 平和公園墓経
- ・ 8月13日(土) 潮音寺納骨堂墓経
- ・ 8月19日(金) 盆施餓鬼会
- ・ 9月23日(金) 秋彼岸施餓鬼会

詳細につきましては、また改めて本誌にて御連絡しますので、

よろしくお願いいたします。

雑記



▼表紙

毎年、正月号の表紙絵を、濱村敏男さんに描いていただいていたのですが、誠に残念なことに、平成16年5月23日、享年69才、お浄土に旅立たれました。

卯年からお願いしましたから、せめて寅年まで、十二支全部を描いていただきたかったです。

▼暖冬

記録破りの暖冬の上です。水仙など、早春に咲くはずの草花がもう満開とか、雪のないゲレンデとか。ともあれ、家内安全、商売繁盛、無病息災を祈念します。

▼焼き餅もバター海苔

巻きニユーイヤー 沐魚